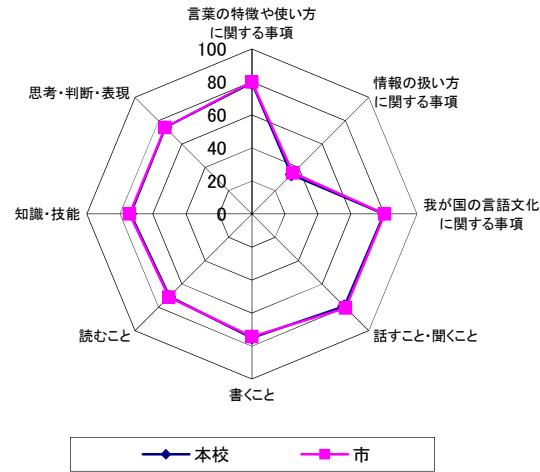


宇都宮市立陽北中学校 第3学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	79.5	80.0	76.5
	情報の扱い方に関する事項	33.9	35.2	29.3
	我が国の言語文化に関する事項	80.1	80.4	63.1
	話すこと・聞くこと	79.0	80.4	77.7
	書くこと	75.0	74.3	62.9
	読むこと	70.8	71.2	65.8
観点別	知識・技能	73.5	74.1	68.4
	思考・判断・表現	74.1	74.3	67.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

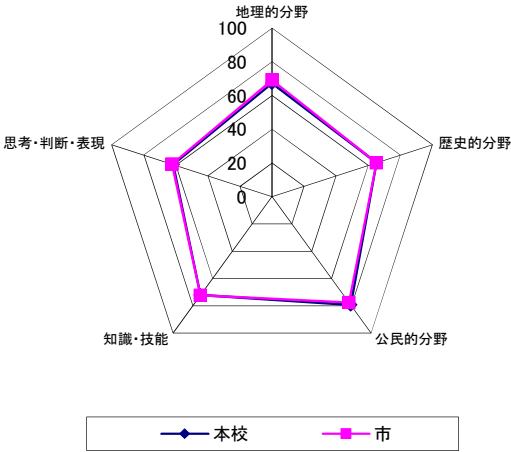
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	○言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ●漢字を正確に書く問題の正答率がやや低い。 ○文法に関しては、対義語を答える問題の正答率は比較的高かった。 ●用言の活用を答える問題では、市の平均を上回ってはいるものの、63.7%と正答を選べていない生徒が一定数いることがわかる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・「書くこと」の指導と合わせて、漢字を書く機会を積極的に取り入れる。また、字形や筆順についても正しく覚えるようにする必要がある。 ・用言の活用は第2学年で学習するため、学習後に内容を忘れてしまう生徒も多い。文法事項を学習する際に、既習事項を復習する時間を取り、回数を重ねて知識の定着を図る必要がある。
情報の扱い方に関する事項	●情報の扱い方に関する事項の正答率は、市の平均をやや下回った。 ●正答率が約3割と低い。 ●論理の展開の仕方をとらえる問題では、情報が書き換えられている部分に気づくことができていなかった。 ●記述式で解答する問題では、2つの要点のうちどちらかのみしか書けなかったり、字数の条件を満たしていなかったりした。	・文章の中で、情報が具体的に書かれている部分とまとめられた部分、比喩表現で述べられている部分など、同じ内容が言い換えられていることに着目して読む習慣をつける必要がある。 ・長文で記述するものに関しては、「書くこと」と関連させ、文章中の表現を用いながら、字数条件を満たす練習を重ねる。 ・資料に書かれてある情報を読み取ったり、図表やレポートなど多様な形式で情報をまとめる機会を設ける。
我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項の正答率は、市の平均とほぼ同じであった。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題は比較的高かった。 ●現代仮名遣いに直すのではなく、現代語訳を書き抜いている解答が一定数あった。 ○古語の現代語訳を書き抜く問題は約9割と正答率が高かった。	・問題文をよく読むように指導する。 ・現代語と表現が似ていて、意味が異なる古語については、授業の中で説明を加えるなど、基礎知識をより定着させていく。
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことに関する事項の正答率は、市の平均をやや下回った。 ○聞き取った内容と資料との関連をとらえる問題では、正確に読み取れていた。 ○話し方や話し合いの進め方を問う問題も、特徴を正確にとらえていた。 ●論理の展開を踏まえて空欄を埋める問題で、前後につながらない解答が一定数あった。	・聞くのみではなく、話し合いの流れや要点をおさえて、発言するという機会を設ける。 ・話し方や話し合いの進め方、発言の適切さを客観的に評価する活動を取り入れる。
書くこと	○書くことに関する事項の正答率は、市の平均をやや上回った。 ○自分の立場と根拠を明確に書くことができていた。 ●行数と段落の構成などの、条件を満たしていない解答が一定数あった。 ●自分の考えを明確に述べることができていなかったり、論点がずれてしまったりした解答があった。	・問題文の指示を正確にとらえるよう指導する。 ・自分が初めに述べた意見と、作文のまとめで書いた意見が、内容が一致していることを確認する習慣をつけさせる。 ・様々な学習活動の中で、自分が書いた意見を自分で推敲したり、他人の書いた文章を推敲したりする活動を取り入れる。
読むこと	●読むことに関する事項の正答率は、市の平均をやや下回った。 ○文学的な文章の展開や表現の仕方について、正確に読み取ることができていた。 ●説明的な文章の論理展開や情報の関係を読み取る問題では、正答率がやや下がった。 ●文学的な文章における登場人物の言動の意味を読み取ることができていなかった。	・説明的な文章を段落ごとの要点を抑え、段落の役割を考えたり、文章全体を要約したりすることで、論理の展開について正確に理解する活動を授業の中で設ける。 ・文学的な文章を批判的に読んだり、登場人物の行動を客観的に評価したりする活動を積極的に行う。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	地理的分野	67.3	69.2	61.5
	歴史的分野	65.2	65.1	59.1
	公民的分野	79.3	77.6	71.6
観点別	知識・技能	72.2	72.2	66.8
	思考・判断・表現	61.6	62.3	53.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。
(社会では本市独自の設問が含まれるため、参考値は全設問に対応した値ではない。)



★指導の工夫と改善

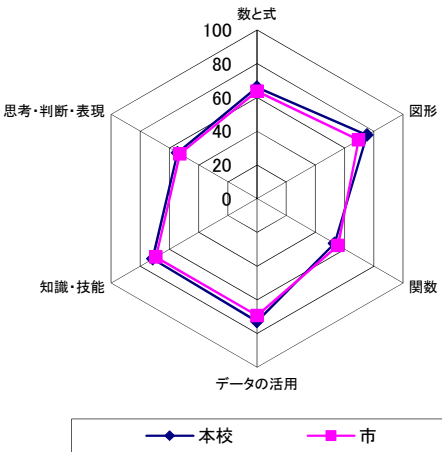
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
地理的分野	○大陸や海洋についてなど、地球の姿についての正答率が高い。 ●全体的に正答率が低く、苦手分野とする傾向がある。 ●「各県のデータをもとに、どこの都道府県にあてはまるか」の問題のように、グラフや表などの数値データの資料を参考に答える問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・地理的分野において、地図の活用は基本スキルなので、国の位置や都道府県の位置などを自分で地図に表せるように指導する。 ・授業において、資料の読み取りを行うときに視点のポイントを確認しながら進めていく。 ・複数の資料を組み合わせる活動を取り入れる。
歴史的分野	○「貝塚」や「卑弥呼」など、小学校から継続して学習する内容についての正答率が高い。 ●文章で記述する問題では「類型外の誤答」が多く、問題に対する適切な解答ができていないことから、資料の読み取ったことを表現する力が弱い。 ●複数の時代が関連した問題での正答率が低い。	・歴史は年表が基本資料なので、年号とできごとを自分で整理し、年表づくりができるようにする。 ・できごとについては、5W1Hを踏まえた説明ができるようにする。 ・授業において、資料の読み取りを行うときに視点のポイントを確認しながら進めていく。
公民的分野	○本校の正答率は市の正答率を上回っている。 ○人権宣言の内容や新しい人権など、一問一答形式の知識を問う問題の正答率が高い。 ●憲法改正の手続きについての手順についての理解が低い。	・人権や政治について、憲法が基本となるので、学習の際に憲法の条文を用いるようにする。 ・人権や政治は、自分たちの生活にかかわることが多いので、具体的な事例を用いて、学習を進めていくようにする。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【数学】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と式	66.0	63.7	61.5
	図形	75.4	69.6	61.1
	関数	53.2	55.4	43.5
	データの活用	72.8	69.3	64.2
観点別	知識・技能	71.5	69.2	65.3
	思考・判断・表現	54.5	52.9	42.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

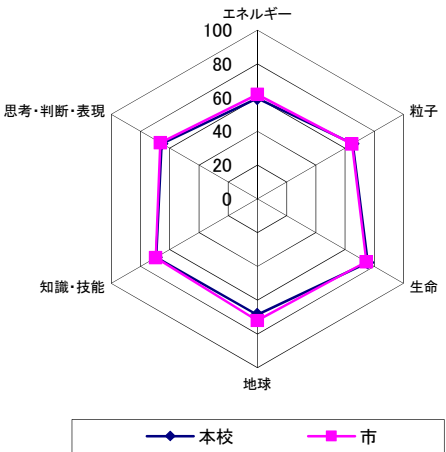
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○市の正答率を2.3ポイント上回った。 ○式の展開の問題では、89.8ポイントと高い正答率であった。 ○平方根の大小関係や二次方程式を解く問題では、市の正答率を大きく上回った(約14ポイント)。 ●正負の数を利用した平均値の求め方の問題では、正答率が33.3%と低く、市の正答率を5.0ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・数と式の領域の中では、特に正負の数を利用した問題に苦手意識が見られる。基準を設け、基準とのちがいを利用して計算する方法については、小学校で学習した「平均値」の工夫した求め方などを取り上げ、そこから発展させ、基準をいろいろ変えてみたり、正負の数を利用できるように基準を設定するなどして学習活動を進めるようにしたい。また、問題解決型の手法も取り入れながら習熟を図っていききたい。
図形	○市の正答率を5.8ポイント上回った。 ○三角形を平行移動させた図を選ぶ問題では、90.3%と高い正答率であった。 ○多角形の外角の和や証明の必要性和意味についての問題では、市の正答率を約10ポイント上回った。 ●示された内容の根拠となる図形の性質の問題では、正答率は79.6%と高い正答率ではあったが、市の正答率を2.4ポイント下回った。	・図形領域、特に論証指導については、定義や性質を正確に理解させるとともに、図に表したり、相手に説明したりする活動を多く取り入れ、論理的に推論するという活動に慣れさせていきたい。また、仮定や結論、根拠がまだ理解できない生徒への手立てとして、基本的な定理や性質を振り返ることができるよう、必要に応じて、学び直し活動を取り入れるようにしていく。
関数	●市の正答率を2.2ポイント下回った。 ○比例の関係を式で表す問題では、88.2%と高い正答率であり、市の正答率を1.5ポイント上回った。 ●2元1次方程式の解の意味についての問題では、正答率は38.7%と低く、市の正答率を11.6ポイントと大きく下回った。	・関数領域は、他領域と比べて正答率が低い。特に、関数的な見方・考え方を活用する問題の正答率の低さは大きな課題となっている。それを克服するため、現実的な事象の問題を「関数的な見方・考え方」を活用し解決するような指導を心がけていく。その際、「なぜ関数(比例・反比例・1次関数・2乗に比例する関数)とみなせたのか」、根拠を示しながら説明できるようにすることや、どのようにして問題を解決したのか、解決の手順を説明させることを大切にしていきたい。
データの活用	○市の正答率を3.5ポイント上回った。 ○さいころの確率を求める問題では、88.2%と高い正答率であり、市の正答率を6.8ポイント上回った。 ●玉を取り出す確率を求める問題では、正答率は67.2%であり、市の正答率を3.9ポイント下回った。 ○ヒストグラムを読み取り説明するの問題では、正答率72.0%であり、市の正答率を9.3ポイント上回った。	・データの活用領域では、四分位数、箱ひげ図の設問について正答率が低かった。これらの意味を確実に理解させるとともに、データを整理して箱ひげ図に表すことができるよう指導していく。また、箱ひげ図の必要感を高めるため、データの種類を増やしてヒストグラムで表す活動を取り入れ、データの種類の多いと読み取りにくいということから、箱ひげ図の有用性につなげていきたい。更に、日常生活で実際に箱ひげ図が使われている場面を紹介し、その必要感も高めていきたい。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	エネルギー	59.6	61.8	60.6
	粒子	65.4	64.8	54.0
	生命	75.5	74.5	66.6
	地球	68.7	72.1	63.0
観点別	知識・技能	69.3	69.6	63.4
	思考・判断・表現	65.4	66.5	57.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

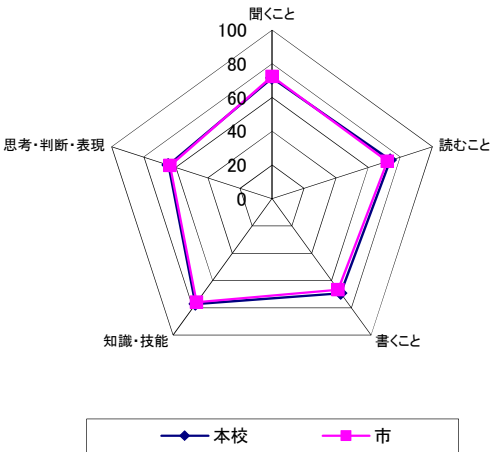
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	1年「光」2年「電流と磁界」3年「力学的エネルギー保存則」が出題。 ○基礎的な概念を問う問題の正答率は市と比較してほぼ同じである。 ●図や文章で条件が追加される問題や、複数の概念を組み合わせる問題の正答率が低い。 ●空間認知能力が求められる問題の正答率が低い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・エネルギー領域は他の領域と比較して正答率が低く、苦手意識がみられる。AIドリルや問題集などを活用し、知識の定着を図るとともに、再現性のある実験を行うことで現象の理解を深めたい。また、実験結果を作図をもとに予想させるなど、規則性を利用する場面を設けていきたい。
粒子	1年「気体の性質」2年「物質の成り立ち」3年「中和」が出題された。 ○領域全体としての正答率は市と比較してやや高い。また、学習から時間が経過していない分野ほど正答率が有意に高い。 ●化学反応式の係数決定やイオンの数の考察など、粒子を実体的に捉える問題の正答率が低い。	・粒子概念の導入に課題があると考えられる。身のまわりの現象を観察し、モデル化して説明させるなどの活動を組み込みたい。また、体系的な知識の定着を図るため、復習の機会を設ける必要がある。
生命	1年「植物の分類」2年「血液の循環」3年「細胞分裂」が出題された。 ○本校の正答率は市の正答率を上回っている。特に、用語問題の正答率が高くなっている。 ●図から正答を選んだり、並べ替えたり、表を解釈したりする問題の正答率が低い。	・生命領域を得意とする生徒は比較的多い。生活経験の中で得た素朴概念が科学的概念と乖離せず、克服が容易なためだと考察する。今後の指導においては、複数の知識を組み合わせたり、資料を活用したりする問題演習を取り入れながら体系的な概念の完成を目指したい。
地球	1年「地震」2年「気象(前線の通過)」が出題された。 ○表から法則を見出す問題の正答率が市と比較して高かった。 ●気象分野についての正答率が低い。 ●複数の情報をまとめて処理する問題の正答率が低い。	・授業内で基礎的な知識の定着を目指す。地球領域では現象の相互作用を考える必要があるが、まずはそれぞれの現象の基準を理解させることを確実にしたい。その上で複合的な問題に取り組みせ、図や文章に表して説明させるなど発展させていく。

宇都宮市立陽北中学校 第3学年【英語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	聞くこと	71.6	72.5	70.5
	読むこと	73.8	71.9	66.9
	書くこと	69.4	66.8	59.7
観点別	知識・技能	77.3	76.0	73.9
	思考・判断・表現	64.6	63.6	55.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○対話における適切な応答や、話の流れから発言を類推する問題において、正答率が全国平均を上回った。 ●領域全体の正答率が市平均を0.9ポイント下回った。 ●まとまりのある文章の概要を捉えたり、理解した内容をまとめたりする力が不十分である。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・デジタル教科書やAIDリルなどを活用し、長文リスニング教材に触れる機会を拡充していく。 ・ディクテーションや文章中の適語補充活動を行うことで、より高い理解力や発話・対話の力を伸ばす手立てとしたい。 ・単語・文章の音読練習において、正確な発音指導を行う。
読むこと	○全14問中9問において、市・全国の正答率を1～4ポイント上回っている。 ○文の内容や、文中の代名詞などを適切に読み取る問題において、正答率が高い。 ●対話の流れから発言を類推する問題において、正答率が若干低い。 ●受動態や現在完了などの表現が含まれる問題において、正答率を下げている。	・前置詞の多様な用法や代名詞など、文章内の重要語句への意識をもたせ、読み取る力をより高める指導をする。 ・読解力の基礎としての単語・文法知識を、他の技能や活動と関連させながら伸ばす指導をしていく。
書くこと	○全9問中7問において、市・全国の正答率を超えている。 ○特に、語順整序問題は正答率が顕著に高い。 ●現在完了や間接疑問文などを扱った設問において正答率が低い。	・各単元で新表現を活用した作文活動や小テストを継続的にを行い、文法知識の定着を目指す。 ・読んだり聞いたりした内容を簡便な文章で他者に伝えるRetell活動を行い、作文力の向上を図る。

宇都宮市立陽北中学校

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学力向上を目指す学習指導の改善	・学習活動と学習評価を一体化し、学習活動の展開を工夫し、個に応じた支援を図る。	・「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる」の肯定割合は、市の平均より1.8ポイント低い。また、本校昨年度より1.0ポイント低い。
家庭学習の充実を図る工夫	・宿題や課題の出し方を工夫し、自主的に家庭学習に取り組む態度を強化する。	・「家庭学習で必要な教科書などの学習用具を持ち帰っている」の肯定割合が、市の平均より9.9ポイント低い。また、本校昨年度より4.8ポイント低い。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・書く力を基盤にしながら、根拠を具体的に説明したり、問題点を指摘したりして、表現力・発言力・発表力を伸ばす指導の充実を図る。また、市の指針に従い、授業の中で「個人用パソコン」を活用していく工夫を図る。